

地質ニュース

昭和 52 年 3 月

第 271 号

1977

解 説

構造地質学ノート

① アルプス地質学の誕生……………星 野 一 男・1

四万十帯あらかると

～安芸一宿毛構造線と室戸半島層群の今昔～……………甲 藤 次 郎・11

ボーリング孔内の観察調査技術の概要……………後 藤 進 幸・18
河 内 英 幸

南島つれづれの記(その6)

～史上第四位の明和の大津波～……………矢 崎 清 貫・32

海外事情

ソ連の斑岩銅鉱床③……………岸 本 文 男・43

昭和 51 年度地質調査所の出版物……………58

編 集 地 質 調 査 所

表 紙 の 写 真

濃飛流紋岩中から植物化石の発見

写真の化石が発見されたのは岐阜県大野郡清見村夏原^{なつみ}の桂洞に鉱区をもつ梅村鉱業所の陶石採掘現場である。この付近においては濃飛流紋岩中の碎屑岩層は変質作用によって陶石化している。この陶石は当初砥石原料として採掘されていたが1960年から主として磁器モザイクタイルの素地用として本格的な採掘がなされている。従来濃飛流紋岩からの植物化石は植物の破片とおぼしきものが発見されたことはあるが写真のような同定にたえる化石が発見されたのは初めてのことである。誠に貴重な標本である。

写真左上の化石は：葉が枝にラセン状に着生している：各葉には気孔線と思われる二列の印象がある：葉縁には細鋸歯がある等々現在東アジアに生育しているスギ科のコウヨウザン属(*Cunninghamia*)の特徴を有し大阪府の和泉層群(上部白亜系)から産出した*Cunninghamia izumiensis* MATSUO に同定される。一方右下の化石は左上の化石と葉の大きさが違うなど一見別種のように思われるが両者の形態的特徴はほぼ一致し同一種と考えられる。

(文 尾上 幸・河田清雄 写真 正井義郎)

発 行 株 式 会 社 実 業 公 報 社